

たののの



TANO HOSPITAL

田野病院

〒 781-6410 高知県安芸郡田野町 1414-1
TEL 0887-38-7111(代) FAX 0887-38-5568

発行人 白井 大介
(題 字 安岡 寧水)

TANO HOSPITAL ホームページ <http://www.usui-kai.com> E-Mail:info@usui-kai.com



「稲渚（奈良県明日香村）」

田野病院理事長就任

理事長 白井 大介

今月から表紙コラムを担当いたします。令和六年七月一日付けで医療法人白井会理事長に就任しました、白井大介と申します。当地で地域医療の灯をともし続けてきた白井会及び田野病院を引き継ぎ、発展させるといふ重責に身が引き締まる思いです。これまで当法人を支えてきていただいた内外の皆様、どうぞ引き続きのご指導・鞭撻をお願い申し上げます。

私は小児外科医として医師のキャリアをスタートし、その後小児科に転科し一〇年余りを過ごし、現在はリハビリテーション科医として幅広く診療を行っています。また、専門とするてんかんや発達障害の外来を長く担当し、社会への啓発活動などに微力ながら努めてまいりました。とはいえ医療・医学は日進月歩で変化しており、進化するスピードはますます速くなっています。常に初心に帰りつつ、知識を吸収し技術を磨いて行きたいと思えます。

田野病院は昭和六一年四月一日開院で、当初は病棟三五床でした。その後、平成四年に新病棟、平成一六年にリハビリテーション病棟、令和四年には増改築を終えて現在の一〇三床になりました。二六〇人を超える職員の方々の活躍で高知

県東部地域の医療・福祉・介護を担う大きな組織になりました。医療を取り巻く環境は大きく変化しており、地域医療を維持するためには次々と発生する新しい問題に、適切に対応していかなくてはなりません。迅速な意思決定と方針を明確にして、そこに医療を必要とする人々がいる限り力を尽くしていきたいと思えます。

前任の白井隆会長におかれましては、昭和六一年四月から三八年余りにわたり常に先頭に立って地域医療活動にご尽力いただきました。開院当初の混乱期、医療を取り巻く環境のめまぐるしい変化の時代、また二〇二〇年からのコロナ禍の中の確かな組織運営に取り組みられた現在の白井会及び田野病院を築きあげた白井隆会長に、改めて心から尊敬と感謝を申し上げます。病院は職員のみならず、関係医療機関、関連する他職種の皆様、そして多くの住民の皆様のご理解とご協力があつてはじめて、その役割を發揮することが出来ます。職員一同、提供できる医療の質の向上のために努力を重ねて参りますので、どうぞ皆様の引き続きのご支援を、心よりお願い申し上げます。

講演報告

【井川副院長の講演会を聴講してきました】

9 月中旬に安芸市のホテル TAMAI にて、『高齢者トータルケアセミナー in 東部』が開催され、当院副院長の井川直樹医師が第 1 セッションに登壇され講演を行いました。

最近外来診療でも増えてきている片頭痛について、井川先生ご自身の診療スタイルの変化があったことなどのエピソードも交えながら発表されました。

一次性頭痛※1 と二次性頭痛※2 の違いについてや、二次性頭痛の除外ばかりが強調され、一次性頭痛への適切な治療につながっていない現状があり、一次性頭痛に悩む頭痛難民の方々が多く存在していることなどを説明されました。その中で少しでも頭痛難民の方を減らすため、多職種から地域住民への啓発が必要なこと、先生自身もこれまでの診療スタイルを見直し、初診時にじっくり話を聞き、治療や予防についてもパンフレットなどを活用し説明するなど、変化していったことについても話され、井川先生の日々の診療に対する考え方や工夫を知ることが出来ました。

経営企画部総務課 有澤正恵



【脳神経外科・診察受付時間】

(井川医師)

月・火・水・金曜日

8:00~12:00

(高知大学医学部)

木曜日

12:00~16:45

※1 一次性頭痛…片頭痛、緊張型頭痛、三叉神経・自律神経性頭痛など命に関わらない頭痛

※2 二次性頭痛…くも膜下出血、脳腫瘍、髄膜炎など命に関わる場合がある頭痛

整形外科教授外来よりご案内

膝・首・肩・腰・股関節などの痛み、手足のしびれ、ねんざ、骨折、リウマチ、痛風などでお悩みの方やリハビリをご希望の方は、ご相談ください。

入院・手術等が必要な場合は高知大学医学部附属病院と連携しております。

【予約受付時間】

月曜日～金曜日:14:00～17:00

※土日祝祭日を除く

0887-38-7111(代表)



高知大学医学部整形外科

池内 昌彦 教授

耳鼻科予約枠開始のご案内

今まで待ち時間が長くご迷惑をおかけしましたが、8 月より耳鼻科の予約が可能となりました。急患の受付も従来通り行っております。

【診察時間】

火曜日:9:00~12:00(急患受付 8:00~11:30)

土曜日:9:00~12:00(急患受付 8:00~11:45)



地域医療研修

令和 6 年度

当法人にて、地域医療研修に取り組まれた研修医の先生をご紹介します。

- 01 今回の研修で学び得たことを教えてください。
- 02 研修中、一番印象に残ったことがあれば教えてください。
- 03 指導医、職員の印象を教えてください。
- 04 今回の研修を経て、改めて、どのような医師をめざされますか？



岡林 真里 研修医

(高知赤十字病院)

研修期間

令和 6 年 7 月 8 日～8 月 2 日

出身地：高知県宿毛市

出身大学：高知大学

趣味：料理

- 01 普段は急性期病院で研修しているので、患者さんのその後について知ることのできる、いい機会となりました。訪問サービスを通して患者さんの背景を感じ取ることができました。
- 02 訪問診療で、患者さんのいないところで涙を流されているご家族がいらっしゃいました。患者さんが施設に入所されることが決まり、負担は減るがもう少し家で見たかったとのことでした。ご家族の葛藤を實際目にしとても印象に残っています。
- 03 職員の皆さんとてもアットホームで、優しく丁寧に指導してくださいました。指導医の先生方もお忙しい中にも関わらず、私の疑問点に熱心に答えてくださり大変勉強になりました。
- 04 どの先生も外来でも地域の患者さんからの厚い信頼を感じました。私も患者さんやご家族に信頼される医師になりたいと思いました。

ふれあい看護体験

7/31・8/13

2 日間で7名の高校生たちが、田野病院へふれあい看護体験に来てくれました。

皆さん、看護師を目指す背景や目標が明確であり、進学を希望している大学のこともよく調べていることに驚きました。この体験を通じて看護師になり地域に戻ってくださることを願っています。

看護部長 岡本直樹

気管内挿管の 介助体験



注射体験



シーツ交換体験



施設見学報告会

7月4日、回復期リハビリ病棟スタッフ4人による「施設見学報告会」が行なわれました。

施設入所や施設へ帰る患者様への退院支援の一環として、施設環境や職員体制、利用者の日課を把握し、患者様が退院後の施設生活に円滑に移行できることを目的に、近隣施設の見学を行ない、その内容についての発表でした。

会場は立ち見が出るほどの満席で、医師・看護師・セラピスト・MSWなど多職種の参加があり、職員の関心の高さが窺えました。

【見学の対象施設】

特別養護老人ホーム(特養)⇒愛光園

介護付き有料老人ホーム⇒アローなごみ

住宅型有料老人ホーム⇒有料老人ホームなはり(住宅型)

グループホーム(共同生活援助)⇒いしんの郷

それぞれの施設特徴があり、入居条件も異なります。

【発表者からの感想】

“百聞は一見にしかず”で今後の治療方針等を検討する上で学ぶ事が多くありました。退院後の生活や動きをイメージしやすくなり、退院先の施設で何が出来て何が出来ないか、入院中に行うべき事などが明確になりました。

また、施設見学にゆくことで地域の働き手の顔を知る、そこで働いている人の思いや熱意などを知り、地域で仕事をする事のモチベーションに繋がるのではと思いました。

今後もこのような機会を設け、地域の医療と介護の連携を深めて行きたいです。

副看護部長 岡林純賀子



災害対策備蓄食&飲料水増強

この度、災害用の飲料水及び保存食を更新し、増築棟の3階災害倉庫に保管しました。

概要は法人全体(病院・在宅センター・保育)を対象として、240人分を約1週間分。さらにソフト食10人分、ミキサー食5人分、ゼリー食6人分を同じく1週間分を追加し、これまでの2倍以上の備蓄量を準備しました。保存期間は10年水と7年食です。(ソフト食は2年保存)

災害食の保存期間や種類の決定には、試食会の開催、献立の作成等、多職種で意見交換しながら行いました。価格交渉や納期が長い物もあり、気がつけば検討開始から完了まで半年を要しました。

次のステップとして保管庫から誰でも取り出せる工夫や、実際の提供場面を想定して決定しておけば、実際の災害時に有効であると考えます。

今後も、患者様や職員の皆さんに少しでも安心していただけるよう取り組みを継続して参ります。

経営企画部部長 安岡将一



身体拘束最小化に向けた事例検討会

9月4日(水)当院大会議室において、身体拘束最小化に向けた取り組みの一環として、事例検討会を行ないました。

2024年の診療報酬改訂で、「身体拘束を最小化するための体制を整えること」が施設基準に打ち出されました。

当院でも基準に従い「身体拘束最小化チーム」を設置し、取り組みを開始しています。

その教育の一環として、チームによる身体拘束事例検討会を行ないました。

参加職種は、看護師・リハビリ・MSW・看護補助者・事務職で、病棟から外来部門にわたり55人の職員が集まり関心の高さが覗われました。

事例への対応を振り返り、身体拘束の目的や、回避する方法、患者さんへの不利益や気持ちなどを話し合いながら、今後の患者さんへの対策を見いだしていきます。

大事にしたいのは、早く患者さんを生活できる状態に戻すことです。私たちの安全安心ではなく、患者さんが安全で安心して治療に臨める状態を作っていくことです。そんなことを学べる時間になりました。

当院の2024年8月の身体拘束率は、急性期病棟15.8%、回復期リハビリテーション病棟3.6%です。認知症やせん妄の患者さんが多い病棟ではありますが、今後も多職種で協力し、患者さんのQOLの向上を目指し、病院全体で身体拘束最小化への取り組みを続けていきます。

副看護部長 岡林純賀子



院外研修報告

【第26回日本褥瘡学会学術集会に参加してきました】

年々、寝たきり・準寝たきりの患者さんが増加しています。

当たり前に行っていた事ができなくなる患者さんの、日常生活の介助を毎日行っています。定期的に身体の向きやおむつ交換なども行いますが、そんな中でも褥瘡やおむつかぶれなど皮膚トラブルは少なからず起こっているのが現状です。皮膚トラブルが起こると、治療している疾患とは別に痛みや痒みなど別の苦痛が出現します。できるだけそうならない為には適切な予防が必要ですが、なかなか思うようにいかない事や、分からない事もたくさんあります。今回の参加で初めて知った情報の一つに、今の日本の陰部ケアは泡とお湯での洗浄ではなく、陰部専用のワイプシートでの拭き取りが主流になっているそうです。デメリットもありますが、時間やコスト、何より洗い残しが少なく感染面でのメリットが多いそうです。

今回得た知識・情報を今後どのように取り入れるかはまだ検討中ですが、少しでも患者さんのプラスになるよう進めていきます。



西病棟 看護師 重光里穂子

New

導入機器紹介

【栄養管理と体重測定】

ベッド上から動くことができない患者様用に体重計を購入しました。

令和 6 年度の診療報酬改定で栄養管理体制の基準の明確化がうたわれ、GLIM 基準(低栄養診断基準)による栄養評価を行なうことになりました。

低栄養の早期発見の指標として、BMI 指標や体重の変化、血液検査などがありますが、中でも体重の変化を確認することは重要です。病院では入院時や入院中の体重減少を把握し食事摂取量が適切か、低栄養リスクを評価しながら栄養サポートを行うことが強化されました。

当院でもより多くの患者様の体重管理が正確にできるように、寝たきりの方がベッド上で測定できるボード型体重計を購入しました。ストレッチャー型の体重計と比べて患者様を移動させることがなく、職員も患者様も測定時の負担が軽減されています。使い勝手も良いので毎日活用されています。

また、患者搬送時にストレッチャーごと体重測定ができる体重計も購入しました。

体重は、管理栄養士さんやリハスタッフと共有し、低栄養リスクによって栄養管理計画が立てられます。高齢の患者さんができるだけ入院前の状態に戻って退院し、生活が維持できるよう、多職種で連携して取り組んでいきます。

副看護部長 岡林純賀子



【急性血液浄化装置導入から病棟での使用状況について】

今回急性血液浄化装置を新規に購入した為西病棟での使用状況も含め、歴史を振り返ってみたいと思います。

急性血液浄化装置は今回で 3 台目となります。初台と比較してもデジタル化、医療の進歩が進み組み立て方法、操作手順が随分と簡易になり、ME がいなくても看護師で管理、運用して行く事が可能となっています。新しい機械となると現場の看護師も緊張や不安な思いを抱いており、大丈夫だろうか、操作できるのかなど様々な感情が動いていました。私もその中の一人です。業者立ち会いの元操作手順を学習し、議論を重ね日々の努力の積み重ねがあったからこそ現在安全に運用、管理出来ているのだと実感しています。また薬剤部においては抗凝固剤使用量の検討、在庫不足の中での薬剤調達など多方面に協力して頂き、血液浄化を行う為には必要不可欠であり、改めてチーム医療の必要性を感じました。今後も安全に大切に運用、管理して行きたいと考えています。

西病棟 主任 乾顕



会長・理事長就任 **祝** 賀会 & 新人大歓迎会

10月5日(土)、一寿司会館において、会長・理事長就任祝賀会と、新型コロナウイルスの影響で2019年以降できていなかった新人大歓迎会を兼ねて開催しました。職員と一緒に日頃から支えていただいている感謝も込めて、ご家族にも参加していただきました。

祝賀会は、臼井大介理事長による会長とのエピソードを交えた温かい挨拶からスタートし、お祝いらしく先生方による美丈夫(田野町)と南(安田町)の鏡割り→バズーカ砲！→島崎副院長の乾杯発声で大宴会へと突入しました。

全体での大歓迎会はしばらく開催できていませんでしたが、みんなの楽しそうな表情を見て、来年度からは無事に開催できたらいいなと思いました。

最後に、一寿司会館は初めて利用させていただきましたが、打ち合わせ段階から色々な相談に対応していただき大変有難かったです。会場の雰囲気も良く大満足の祝宴となりました。

祝賀会・大歓迎会実行委員会



祭屋・ちやいや

-SAIYA-

よさこい演舞



8月3日(土)に在宅ケアセンター駐車場・田野病院南駐車場において、『祭屋・ちやいやよさこい演舞』が開催され、患者さんや利用者さんに大変喜んでいただきました。今年も暑い中演舞して下さった皆さん、本当にありがとうございました。

また、第71回よさこい祭り・審査員特別賞を受賞された、祭屋よさこい踊り子隊の皆さんおめでとうございます。



高知の未来を担う子ども達によさこい祭りの楽しさを幼いうちから知ってもらいたいという願いから、昨年祭屋はジュニアチーム「ちやいや」を立ち上げました。子育て奮闘中の祭屋 OB・OG が中心スタッフですが、私のもれなく子育てのために祭屋を離れざるを得なかった OG であり、ちやいや初出場の昨年は4年ぶりのよさこい祭り参加でした。

「やっぱり私は祭屋でチーム引っ張ってバリバリ踊りたい(> <)」という昨年の私の気持ちを知ってか知らずか今年はチームの代表から「祭屋のインストラクターに復帰してほしい」との依頼が。祭屋で5年ぶりに踊り子さんと向き合い日々悩みながら上達していく姿を一番近くで見守り、本番に向けてチーム一丸となって盛り上がっていくという、インストラクターにしか経験できない喜びや醍醐味を久しぶりに肌で感じる事が出来ました。

自分自身も祭屋で本番出場できることを期待しつつ5歳の娘に今年の意向を聞いてみると、「次は前よりももっともったいいお顔で踊りたい！メダルがもっといっぱいもらえるように練習も頑張りたい！」との返事が。やっぱり今年も祭屋で踊ることは泣く泣く諦め、娘の笑顔を見ながらちやいやと一緒に踊りました。

連続受賞を目指していた祭屋は審査員特別賞を受賞！ちやいやは今年煽り掛け声に当院ソーシャルワーカーの島村君親子を迎えて(子どもたちは保育園年長組さんクラスメイト)、みんなで楽しい夏の思い出を作ることが出来ました。

田野病院でのよさこい演舞もみなさん今年も楽しみにして頂いていたとのこと、嬉しかったです。ここでの演舞はチームとして初めてお客さんの前で披露する場ですので子どもたちは緊張し表情もカチコチになっていましたが、温かい拍手やご声援本当にありがとうございました。

リハビリテーション部 言語聴覚士 小松真弥



たのたの
楽楽けんこう隊

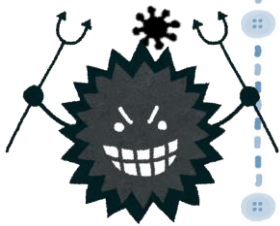
「感染について」～意外とあります実は～

令和 6 年 7 月 26 日 (金) 11:00~12:00

リハビリテーション部部长 理学療法士 細田 隆之

感染は個人の健康に大きな影響を与えるだけでなく、社会全体にも広範な影響を及ぼすことが今回の新型コロナ感染症により思い知る事となりました。一般的に、感染経路(接触・飛沫など)、免疫の低下、病原体を保有している人との接触などの条件が揃うと感染しやすくなると言われています。

予防策として、手洗い、マスクの着用、ソーシャルディスタンス、予防接種が有効とされていますが、免疫機能を向上させることも感染予防には大切と言われており、適度な運動は免疫機能を向上させることが分かっています。また少ない運動習慣や激しい運動習慣は逆に免疫機能を下げ、風邪等にかかるリスクを高めるとも言われています。毎日+10分の運動を取り入れるところから始め、無理のない運動習慣を身につけ、感染症や病気を寄せ付けないようにしていきましょう。



シリーズ:ロコモ③ 足・膝の痛みについて

令和 6 年 8 月 23 日 (金) 11:00~12:00

リハビリテーション部 作業療法士 河野 裕一

シリーズ:認知症② アルツハイマー型認知症について

令和 6 年 9 月 27 日 (金) 11:00~12:00

リハビリテーション部 作業療法士 武田 誠実
作業療法士 樋口 将也



レシピ名

【ごろごろさつまいもドーナツ】

材料

材料(約 15~20 個分)
1人分のエネルギー320kcal
たんぱく質 6g 塩分量 0.5g



- ・さつまいも 1/2 本(100g)
- ・さつまいも(混ぜ込む用) お好みの量で
- ・ホットケーキミックス 150g
- ・絹ごし豆腐 100g
- ・牛乳(※なくても OK) 大さじ 1
- ・砂糖 お好みの量で
- ・黒いりごま(※なくても OK) お好みの量で



栄養部 管理栄養士 山本瑠奈

作り方

- ①さつまいも 1/2 本は皮をむいていちょう切り(切り方はざっくりでOK)にし、耐熱容器に入れラップをして 600W で 5 分加熱する。
- ※加熱しすぎるとパサパサになるので調整する。
- ②混ぜ込む用のさつまいもは皮をむかずに 1cm 角くらいのサイコロ状に切る。
- ※気になる方は切ったさつまいもを水にさらしておく。
- ③①に豆腐を加えてなめらかになるまでフォークなどで潰す。
- ④その後、ホットケーキミックスを加えてさっくり混ぜる。
- ⑤④を手で丸める(お好みの大きさに)。サイコロ状に切ったさつまいもをお好みに埋め込みながら丸めていく。
- ⑥フライパンに 1cm ほどの油を入れ熱し、⑤を転がしながら揚げ焼きにする。
- ※たっぷりの油で揚げるのでも OK。
- ⑦揚げたら熱いうちに砂糖・黒いりごまをまぶして完成。

ポイント

甘さ控えめのドーナツです。少量の油で揚げ焼きにしているため脂質は抑えて手間も少なくしています！さつまいもには米や小麦と同じくエネルギー源でありながら、ビタミンやミネラルを豊富に含んでおり、スーパーフードや準完全栄養食と言われることもあるそうです。ビタミン C は熱に弱い性質の栄養素ですがさつまいもにおいては、加熱によってさつまいもに含まれるデンプンがビタミン C を保護し、熱でも破壊されずに摂取できるといいます。食物繊維もたっぷりとお通じにも最適！ぜひ試してみてください。

迫り来る南海トラフ地震に備えて



回復期リハビリ病棟 准看護師 徳永光璃

皆さんは、防災バックを持っていますか？8月の初めに、南海トラフが起こる可能性があるかと警戒したのは、皆さんの記憶に新しいと思います。私も倉庫にしまっていた防災バックを引っ張り出し、水や食量の期限が切れていないか確認しました。案外期限が持つのだなと思いましたが、震災した時には期限が切れているかもしれません。

都会の方では、令和の米難民と言われるほど、お米が手に入らず、仕送りした、してもらったと何度か聞きました。

当院でも災害研修を実施し、いざ地震が起こった際に患者さんの搬送をどうするか等、グループワークで話し合いました。皆が混乱する中で、冷静且つ迅速に、また自身も被災者でありながらも、より寄り添える看護が行なえるよう、現在災害支援ナース育成研修にも参加しています。

自身で備えることが必要になってくるので、皆さんも早めに防災バックの見直しをしてみてくださいはいかかでしょうか。

編集後記

暑さも落ち着き、涼しくなってきました。食欲の秋、スポーツの秋、芸術の秋など様々な「〇〇の秋」がありますが皆さんが思い浮かべるのはどんな秋でしょうか。

過ごしやすいこの季節にぜひ様々な秋を味わってみるのもよいかもしれませんね。

栄養部 塩田雪月



当院薬剤部・齊藤忠男部長が、2024年8月1日外務省飯倉公館で開催された「国際緊急援助隊の参加に対する外務大臣感謝状授与式」において、上川陽子外務大臣から感謝状を授与されました。

2023年2月トルコ共和国で発生した地震に対する国際緊急援助隊での活動が顕彰されました。

